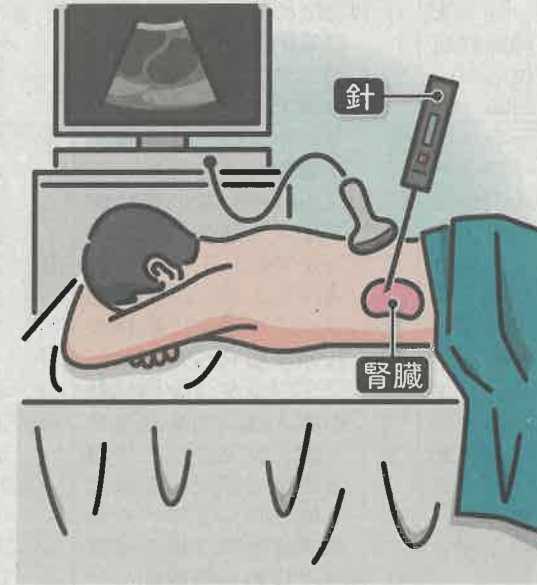


健康

健康

慢性腎臓病に万全の体制



腎臓は「沈黙の臓器」と言われ、機能が弱っても初期の段階ではそれを補う働きが強く作用する

脇野修
腎臓内科教授・
診療科長



徳大病院
元気を
支える
医療

ため無症状です。補う働きが十分でなくなると症状が出てきます。

慢性腎臓病の初期症状は全身の倦怠感や食欲不振、夜間多尿などです。これが末期腎不全になると機能を補う働きができなくなり、浮腫（むくみ）や尿の減少、呼吸困難、不整脈、悪寒など多岐にわたる症状が現れます。症状を薬で抑えられなくなると血液透析や腹膜透析、腎移植に頼ることに

診て治して寄り添う

なります。

最初のサインは尿タンパクや血尿、尿をつくる尿産生能の低下です。慢性腎臓病は検尿の所見と尿産生能の指標を目安に程度を判断します。軽度（中程度で詳しい診断をして治療を始めるのが重要です）。

徳大病院では、問診で腎臓病に関連のある薬の服用や喫煙、家族の病歴などを聞きます。採血では高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病、自己免疫疾患、がんの有無を検査。画像診断で腎臓の萎縮や奇形、尿の通り道の異常などを調べます。

腎臓を詳しく調べるために入院してもらい、腎生検もします（図参照）。腎臓の組織の一部を取り、顕微鏡で確認します。尿をつくる糸球体という部分や尿の通り道である尿管の状態が分かり、効果的な治療につながります。

治療は大きく分けて根治を目指す方法と、進行を抑制する方法があります。根治療法は、腎臓の炎症が原因となっている

場合は、炎症を抑えるために副腎皮質ステロイドや免疫抑制剤を用います。

慢性腎臓病は徐々に進行するため、進行速度を遅くする治療も行います。まずは食事療法でタンパク質や塩分を制限します。次に喫煙や運動不足などの生活習慣を改善します。最後が薬物療法で、血圧や血糖、脂質、尿酸を管理する薬を処方します。最近では「SGLT2阻害薬」や「ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬」など、進行を抑制する薬も出てきています。

大切なのは健康診断や人間ドックでの検尿、尿産生能のデータをおろそかにしないことです。医師から受診を勧められたら、症状がなくても専門の医療機関にかかりましょう。早期であれば慢性腎臓病は治療が見込めます。高血圧や糖尿病、脂質異常症などで通院する人は、慢性腎臓病の合併の有無を調べてもらってください。とにかく早く診てもらうことが重要です。